

保証書

■システムの保証

1. 本製品は取り付け日(本書記載の購入日より)から1年間のメーカー保証が付属されています。
2. 保証期間中、取扱説明書・注意書きに従った正常な使用状態で不良・故障した場合には、本保証規定の記載内容に
3. 基づき、同等品への交換若しくは修理を致します。(但し、交換時に発生した工賃は対象外)
保証期間の認定は購入された際の領収書、又は本書に取り付け日が明記され、販売店印のある製品保証カードに準じます。(購入日の記入若しくは販売店の記入が無いものは、原則として保証対象外とします)
保証期間の最終日が日曜・祝日の際は、その次の日を最終日とします。

■保証適応外(保証書をご提示いただきましても、次の場合は有料となります)

1. 取り付け日から保証期間が経過した又は保証期間を証明できない場合。
2. 取扱説明書に記載の使用方法又は注意に反するお取り扱いに起因する故障若しくは損傷。
3. 火災、地震、水害、落雷、台風、塩害、その他天災地変、公害等の不可抗力による損傷、人為的破壊(擦り削り、ヒンジ割れ、破裂、衝撃など)不注意(紛失、不当な保管)、分解、改造等による損傷。
4. 弊社認可外の部品を用いたりお客様ご自身又は、第三者による設置、追加、改造、修理による損傷。
5. 定期的交換が必要とする消耗品。(ゴム製バックイン、エアバルブ、センサー取付ベルト)

■重要事項

1. 上記保証規定を書面、ホームページでの修正、説明、解釈の権利が弊社に帰属します。
2. 本製品のご購入、使用に起因する付随的又は間接的損害及び本規定に反する行為による財産、人身の損害に対して当方では責任を負いかねます。
3. 本製品は車両のタイヤ空気圧・温度を監視する事を補助するシステムであり、お客様のタイヤの状況の点検、法規、車両メーカーの規定に基づいた定期点検を代替するものではありません。
4. 「エアバルブ」「専用スクリュー」は消耗品であり、本システムの保証対象外となります。タイヤ交換、センサーの交換、再取付の際、必ず新品の「エアバルブ」「専用スクリュー」をご使用ください。
5. エア漏れ防止のため、毎年定期的に「エアバルブ」を点検、交換する事を強くお勧めします。

製品名	P411B
取付日	年 月 日
製造番号	



■製造元 Orange Electronics
www.OrangeTpmsUsa.com
5765 stare Rt.48 Building 110 Suite 186
Maineville, Ohio 45039
www.orange-electronic.com



■輸入元 株式会社オレンジ・ジャパン
〒160-0002
東京都新宿区坂町 28-1 三廣ビル1F
TEL 03-5368-1566 FAX 03-5368-1585
www.ojtpms.co.jp

販売会社名

取付担当者

住所:

TEL

FAX

印



必ずお読み下さい

取り付け方法/取り扱い説明書

【P411B】



Wireless Tire Pressure Monitoring System

タイヤ交換及びタイヤローテーション時には必ずお読み下さい。

製品を取り付け後も、必ず車両に本書を携帯して下さい。

株式会社 オレンジ・ジャパン

<http://ojtpms.co.jp>

タイヤ空気圧・温度モニタリングシステム

オレンジエレクトロニック社製タイヤ空気圧・温度モニタリングシステム（TPMS）をお買い上げいただきありがとうございます。

TPMS は車輛の安全性を高めるために一般公道向けに設計されたもので、専門技術者による車輛への適切な装着で、自動的にタイヤの空気圧と温度をモニタリングします。

このシステムはリアルタイムでタイヤ内温度と空気圧の状態を測定し、表示するモニターが組み込まれています。

測定値が、設定範囲外になった際には、異常表示と警告音によりドライバーにお知らせいたします。適切なタイヤ空気圧維持は、タイヤの寿命延長、低燃費、安全性の向上などに繋がります。

■ 本書に関するお願い

- (1) 取り付け作業や製品をご使用前に、本書をよくお読みの上、正しくご使用ください。
誤って取り付けをされますと、誤作動や故障の原因となる場合があります。
- (2) 本書は取り付け終了後も、取り付け車両に携帯し、いつでも読み返せる場所へ保管してください。
- (3) 本書を無断で使用・転載することは禁止されています。
- (4) 本取扱説明書には保証書が添付されています。
ご購入の際には必ず保証書にご購入店名、ご購入日の記載を販売店に依頼して下さい。
販売店の記入がない保証書は、いかなる場合でも保証の対象とはなりませんので予めご了承下さい。
- (5) 本書の内容は予告なく変更される場合があります。

■ 製品の適用範囲

TPチェッカー P411B は、最大空気圧500kPaの日本国内一般乗用車等の（4輪車両）向け製品になります。本マニュアルは4輪車両をモデルに説明するものとなり、6輪車両の対応製品・マニュアルをお求めの場合は、各販売店・各代理店又は弊社までご連絡ください。

FCC による警告

本機はFCC ルールの15章に準拠しています。操作は下記の2つの条件に従うものとします。

- (1) 本機が有害な電波干渉を起こさないこと。
- (2) 本機は、想定外の操作を引き起こしうる電波干渉を含め、いかなる電波干渉も許容しなければならないこと。本機は、FCC 規則第15章に定められたクラスB デジタルデバイスに関する規制要件に基づき試験が実施され、適合するものと認定されています。これらの規制は、住空間への設置において、有害な電波干渉から適切に保護することを目的としています。

本機は電波周波エネルギーを発生・使用し、また外部への放射の可能性があります。指示に従わない装着および使用をされた場合は、無線通信に対し有害な電波干渉を引き起こす可能性もあります。しかしながら、特定の取付において有害な電波干渉が発生しないことを保証するものではありません。本機をオン/ オフにすることによって、本機がラジオやテレビの受信の有害な電波干渉を引き落とすことが判明した場合、ユーザーには、以下のいずれかの方法で電波干渉の補正をすることをお勧めいたします。

- 受信アンテナの設置もしくは配置をしない。
- 機器と受信機の間隔を広げる。
- 受信機が接続されている回路とは別の回路のコンセントに機器を接続する。



FCC 準拠の責任を持つ当事者により明示的に承認されていない一切の本機構成上の変更または改造は、本機を操作するユーザーの権利を無効とします。

FCC 電波周波数曝露遵守要項に適合させるために、本機およびそれぞれのアンテナは他のアンテナまたはトランスミッターとともに絶対に同一場所に配置したり、操作したりしないで下さい。

TPMS の使用および警告

本製品は、日本国内車輛のタイヤ空気圧・温度を監視することを補助するシステムであり、お客様自身に帰するタイヤ点検、または、車輛メーカーの規定に基づいた定期点検を代替するシステムではありません。定期的に本製品が正しく機能しているかエアゲージ等で確認して下さい。
また、リアルタイムで各車輛のタイヤ空気圧・タイヤ内温度をモニタリングしますが、パンク等の急激な減圧を事前に予測するものではありません。お客様自身の責任において、警告に対して迅速かつ慎重にご対応下さい。



本製品は専門技術者による取り付けをお勧めいたします。
このシステムは、ワイヤレス無線周波数 (RF) 製品です。そのため、劣悪な環境条件・誤操作、もしくは誤った取付が原因で信号を受信できない場合があります。安全に車を移動できる場合は、他の位置に車を移動させタイヤ状態をチェックして下さい。またはお近くのタイヤ専門店及び専門技術者のシステムチェックを受けて下さい。

■ 製品の警告表示

本システムはセンサーでタイヤ内圧力、タイヤ内温度を感知し、無線信号でモニターへ送信するシステムです。正常な状態での作動は、緑色の数字で空気圧・温度を表示いたします。センサーが空気圧・温度の異常を感知すると異常信号を車内に設置したモニターに送信し、警告音と赤色の警告表示でドライバーに危険を知らせます。

■ 警告についての対応と注意

走行中に TP チェッカー が空気圧不足が発生し、タイヤがパンクしている事が分かった場合に、応急処置としてエアバルブから注入するパンク修理キットを使用するケースが考えられます。TPChecker を装着しているホイールに、パンク修理キットを充填すると、センサー及び取り付けビスを破損させ、システムが正常に作動しなくなる恐れがあります。

(※TPCheckerに限らず、他社製 TPMS もパンク修理キットが使用出来ないアイテムが殆どです)

■ その他注意事項

ロープロファイルのタイヤ&ホイールを装着のお車は、特に縁石やキャッツアイ等を勢いよく乗り越えますと、センサーを破損する可能性がありますので、十分ご注意下さい。

長時間、異常な状況下で使用を続けるとセンサー消費電力が増え、通常よりも電池の使用年数が短くなる可能性があります。

TPMS の仕様

P411B Specification

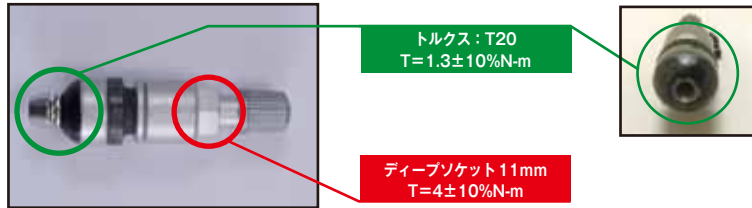
■ センサー仕様	
バッテリー寿命 (センサー)	約3~5年間 ※但し、期間を保証するものではありません。
周波数	315MHz帯
測定空気圧範囲	0~500kPa
測定圧力誤差範囲	±10kPa
測定温度範囲	-40℃~125℃
測定温度誤差範囲	±4℃
バッテリー電圧	3.6V
センサー重量	30g(±2g)
センサーサイズ	63mm×33.5mm×19mm (バルブ部分は含まれません)

■ 受信機仕様	
作動電圧	9V~16V DC
作動電流	≤200mA
周波数帯	315MHz帯
表示空気圧範囲	0~500kPa
表示温度範囲	-30℃~100℃
低空気圧警告設定範囲	120~250kPa / (初期設定値180kPa)
高空気圧警告設定範囲	280~420kPa / (初期設定値350kPa)
温度警告設定範囲	60℃~100℃ (初期設定値80℃)
車輛バッテリー電圧設定範囲	10.5V~12.5V (初期設定値10.5V)

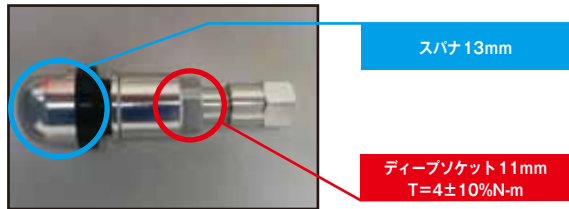
※製品の仕様は予告無く変更される場合があります。

各バルブ締め付け部スパナ&ソケットサイズ一覧

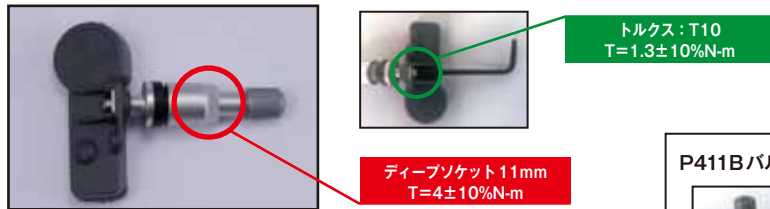
■ P411B 用バルブ



■ P411・P405SM・LT409 用バルブ



■ P417G 用バルブ



■ tv8 バルブ(オプションバルブ)

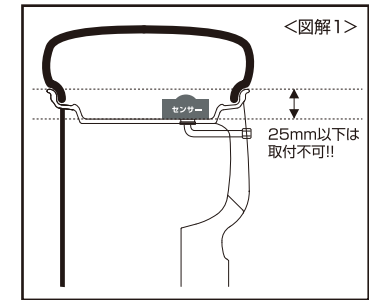


TPChecker 取付前の注意

- ①今お使いのタイヤ・ホイールにエア漏れや破損箇所が無い事を確認して下さい。
- ②装着するお車の常用空気圧をご確認下さい。
自動車は車種や使用状況により、個々に常用空気圧が設定されています。常用空気圧設定値に適合したTPチェッカー各モデルを選択して下さい。
- ③エアバルブの形状及びホイール(バルブホール)形状をP8.9指図書に従って確認して下さい。付属の専用バルブ(tv10)で適合しない場合は、各々適合するオプションパーツを購入して下さい。

注)取り付けできないホイール

A. ホイールのビードストッパー部分の高さが足りないホイール、バルブ取り付け面とビードストッパー部分とのクリアランスが、25mm以下のホイールにはTPCheckerは取り付け出来ません。(図解①参照) 走行中に縁石や段差を越える際に、エア不足や大きな入力等で起こるタイヤのたわみが要因で、センサーとタイヤ内部が干渉し、取り付け部分に大きなダメージを与える事があり、バルブが緩んだりセンサーが破損する可能性があります。



■ ホイールとセンサーのクリアランスにご注意下さい

- B. センサーを取り付けた際に、ホイールとセンサーのクリアランスが大きい場合について、リム打ちした際にセンサー破損が生じやすいのでクリアランスにご注意下さい。

1. 梱包内容の確認

TPChecker411B には下記が同梱されています。



モニター ×1 (P411B)



センサー ×1 セット



モニター用電源ケーブル ×1



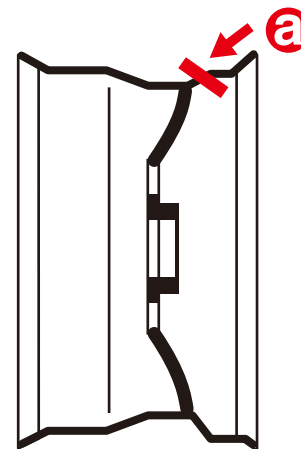
バルブ(tv10) & スクリュー ×4 セット



ベルクロ ×1

2. ホイール適合確認

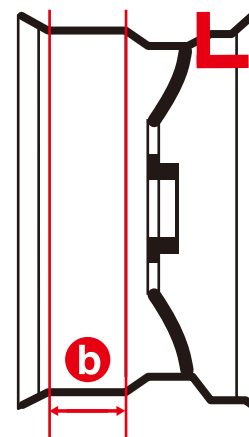
① ストレート型バルブ



a の部分の直径は？

- 約 6mm → 6mm type のバルブ
- 約 7.5mm → tv8 type のバルブ
- 約 10.5mm → 付属の tv10 バルブ

② L型バルブ

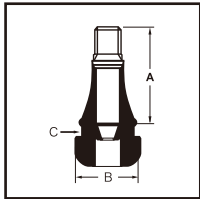


b の部分の幅は？
(ホイールウェル部の幅)

- 40mm 以上 → ベルト装着
- 40mm 以下 → TPチェッカーの
取付不可

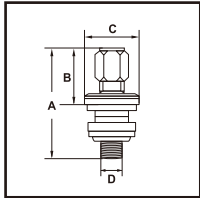
3. エアバルブ適合確認 (2. ホイール適合確認に連動しています)

■ ゴムのバルブ



tv10バルブ+
スクリューセット (付属バルブ適合)
TP-0102
(1個) ¥1,365

■ 内締めストレートバルブ



6mmバルブ+
アルミアダプターセット
TP-0140 (1個) ¥2,730

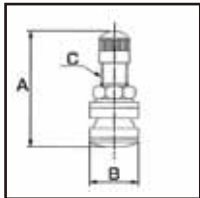


tv8
アルミアダプター
TP-0157 (1個) ¥1,418



tv8バルブ+
アルミアダプターセット
TP-0171 (1個) ¥2,783

■ 外締めストレートバルブ

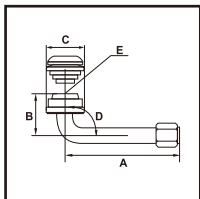


tv8バルブ+
アルミアダプターセット
TP-0171
(1個) ¥2,783



6mmバルブ+
アルミアダプターセット
TP-0140
(1個) ¥2,730

■ L型バルブ ジョイントベントバルブ



センサー装着ベルト
17~19インチ TP-0416
20~22インチ TP-0409
(1個) ¥5,250

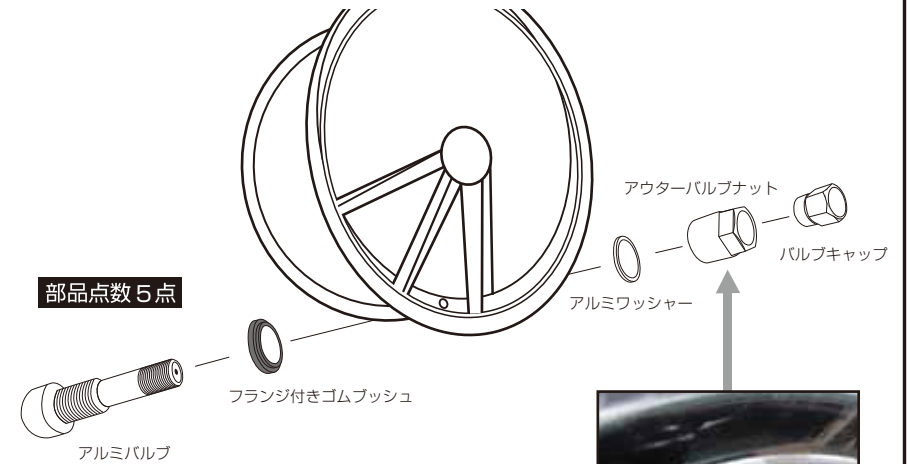
4. センサーのホイールへの取付

■ 各タイヤポジション毎にポジション設定されたセンサーをホイールに装着

RF-1 → 右前 RR-2 → 右後 LR-3 → 左後 LF-4 → 左前

・付属バルブ (tv10) の取付

通常は図Aの部品構成にてホイールに取り付けてください。



アウターバルブナット
締め付けトルク T=4±10%N-m

・オプションバルブの取付



■ 6mm及びtv8バルブの取り付け

通常組み込みと同様に、ホイールへエアバルブを組み込みます。エアバルブに付属しているダブルナットを一つにして、エアバルブをホイールへ取り付けて下さい。



■ バルブナットの締め付け

ホイールへ取り付けしたエアバルブへアルミアタッチメントを取り付けます。この際、エアバルブとアルミアタッチメントの吻合部分へ、必ず緩み止めを塗って下さい。



インナーバルブナット
締め付けトルク $T=1.5 \pm 10\% \text{N}\cdot\text{m}$



アルミアダプター
締め付けトルク $T=1.5 \pm 10\% \text{N}\cdot\text{m}$

※エアバルブ取付終了後、必ずエアバルブを上下左右に動かすなどして固定されているか確認する。

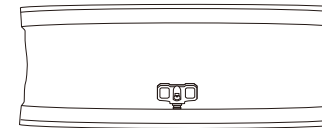


◆ センサーの位置

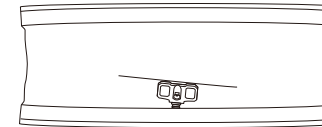
センサーをリム面に平行になる様、取り付けを行って下さい。

5. センサー装着状態のチェック

○ 正しく付けられた例



× 斜めにセットされた悪い例



6. センサー装着状態のチェック



■ タイヤの組込み

タイヤを組み込む際に、タイヤチェンジャー等でセンサー本体を破損しないよう十分注意して作業を行って下さい。



■ エアを入れます

タイヤが組みあがりましたらホイールに空気を入れます。(窒素ガスも可) 適正空気圧まで空気を充填して下さい。エアバルブを上下左右・押し込む等してエア漏れが無いが、または確実に取り付けられているか最終確認して下さい。



■ ホイールバランスを取ります

7. モニターと電源ケーブルの取付方法

1. モニターを両面テープでドライバーが視認しやすい場所へ取り付けてください。
2. 電源ケーブルのUSB端子をモニターUSBコネクタに差し込みます。
3. モニターと反対側のケーブルをシガーソケット差し込みます。
(この際に車両のソケット電圧(9V~16V)がTPチェッカーに合うかを必ずご確認ください)



■ 電源ケーブルの配線方法
レッド VCC
グリーン ACC
ホワイト (アンテナケーブル)
ブラック ヒューズBOX(アース)

■ シガーソケットの無い車輛への取付

(※注意事項・・・施工は専門技術者に限ります。)

シガーソケットが無い車両にTPチェッカーを装着する場合は、電源ケーブルのシガーソケット部分をカットして、車両に装着する事が出来ます。電源ケーブルをカットする際には、必ずソケット部分のみを切り落として、電源コードを短くカットする事はしないで下さい。(手順と異なる取り付けは保証対象外となりますのでご注意ください)

電源ケーブルの赤線を車両側VCCにつなぎ、緑線をACCにつなぎ、黒線をヒューズボックスにつなぎます。(上記図を参照)

※ 上図の様に配線を行うと、モニターは常にセンサーデータを受信します。モニターのLEDはACCをオンにすれば電源が入り、オフにすればモニター電源が切れます。

※ モニターと電源ケーブルをつなぐUSBソケット部の改造は絶対に行わないで下さい。
(保証の対象外となります)

※ 電源ケーブルはアンテナを兼ねていますので、コードを短くカットすると受信感度が低下します。
(保証の対象外となります)

■ モニターを視認性の良い位置に装着する

■ モニター電源ケーブルをシガープラグに入れACC ON モニター作動を確認する

■ 異常警告値の設定

- ・ ロープレッシャー：初期設定値 180kPa (120~250kPa 設定変更可能)
- ・ ハイプレッシャー：初期設定値 350kPa (280~420kPa 設定変更可能)
- ・ ハイテンプレッシャー：初期設定値 80℃ (60~100℃ 設定変更可能)
- ・ 車輛バッテリー電圧：初期設定値 10.5V (10.5~12.5V 設定変更可能)

■ 異常警告表示(音)の確認

選択したタイヤの空気圧を減少させ、異常警告表示(音)するか？確認

■ 商品説明、注意事項の確認、保証書への記入

(ユーザーサイン厳守並びに店舗側控えとしてコピーし保管すること)

モニターについて



Setup Setupボタン

各ワーニング(※注1)の設定画面の切り替え及びワーニング設定値決定ボタン
(※注1)ロープレッシャー・ハイプレッシャー・ハイテンプレ・車輛バッテリーワーニング

P/T P/Tボタン

表示(タイヤ空気圧・タイヤ内温度)切り替えとワーニング設定値増減ボタン

■ 表示方法

モニター電源ON状態で、各一輪毎のタイヤ空気圧・タイヤ内温度の情報を右回りに表示します。

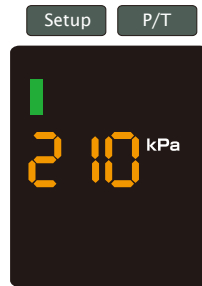
■ 表示切り替え方法

P/T ボタンを押すと(モニター電源ON状態で)

1. タイヤ空気圧
2. タイヤ内温度
3. タイヤ空気圧・タイヤ内温度(交互表示)
4. 車輛バッテリー電圧

以上の順でモニター表示の切り替えを行います。

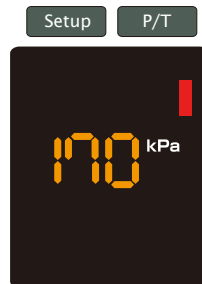
モニター表示例



タイヤ空気圧正常時

(ロープレッシャーワーニング設定値 180kPa
ハイプレッシャーワーニング設定値 350kPa の場合)

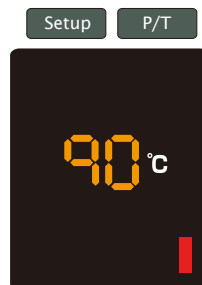
左図の表示は、左フロントタイヤの空気圧が正常時の図です。



タイヤ空気圧の異常時

(ロープレッシャーワーニング設定値 180kPaの場合)

左図の表示は、右フロントタイヤの空気圧がロープレッシャーワーニング設定値を下回ったので赤点灯で警告表示している図です。



タイヤ内温度の異常時

(ハイテンプワーニング設定値 80°Cの場合)

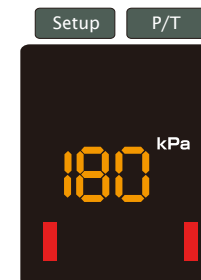
左図の表示は、右リヤタイヤのタイヤ内温度がハイテンプワーニング設定値を上回ったので赤点灯で警告表示している図です。

ワーニングの設定

TPチェッカーは、出荷時に設定されている各種アラームの設定値を任意の数値に変更する事が出来ます。

※必ず車両側の空気圧設定値をご確認の上、TPチェッカーの設定を行って下さい。
車両側の規定値と異なった 数値を設定し、タイヤバーストや事故への保証は致しかねますのでご注意下さい。

■ ロープレッシャーワーニングの設定 (120 ~ 250kPa)



1. Setupボタン(Resetボタン)を3秒長押しすると、ロープレッシャーワーニングモードになります。(左図)
2. ロープレッシャーワーニングモードの初期設定値は、180kPaに設定されています。
3. ロープレッシャーワーニングの設定値は、120kPa ~ 250kPaの間で設定することが出来ます。Function(P/T)ボタンで空気圧を設定して下さい。
4. ご使用する車両によってとタイヤ空気圧は異なります。お使いになる車両の空気圧を必ずご確認頂き、ロープレッシャーワーニングの設定値を正しく設定して下さい。設定値が分からない場合は、自動車メーカー及び取り付けタイヤショップ等でアドバイスを受けてください。

※タイヤにパンク等が起きた場合の責任は、ユーザーの責任となりますので、必ず正しい空気圧数値で設定を行って下さい。

5. ロープレッシャーワーニングの設定が完了しましたら、Setupボタン(Resetボタン)を押して下さい。システムはハイプレッシャーワーニングの設定モードへと移行します。

■ ハイプレッシャーワーニングの設定 (280 ~ 420kPa)



1. ロープレッシャーワーニングの設定の後、システムは自動的にハイプレッシャーワーニングの設定に移行します。(左図)
2. ハイプレッシャーワーニングの初期設定値は、350kPaに設定されています。
3. Function ボタン (P/T) で空気圧を設定して下さい。表示が420kPaの状態ではFunction ボタン (P/T) を押しと280kPaへと戻ります。
4. ご使用する車両によってタイヤ空気圧は異なります。お使いになる車両の空気圧を必ずご確認ください、ハイプレッシャーワーニングの設定値を、正しく設定して下さい。設定値が分からない場合は、自動車メーカー及び取り付けタイヤショップ等でアドバイスを受けてください。
※タイヤにパンク等が起きた場合の責任は、ユーザーの責任となりますので、必ず正しい空気圧数値で設定を行って下さい。
5. SetUp ボタン (Reset ボタン) を押ししてロープレッシャー・ハイプレッシャーワーニングの設定を終了します。
システムは、ハイテンプレッシャー設定へと移行します。

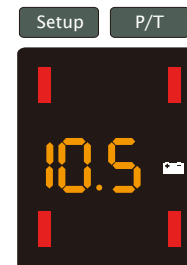
■ ハイテンプレッシャーワーニングの設定 (60 ~ 100℃)



1. ハイプレッシャーワーニング設定の後、システムは自動的にハイテンプレッシャーワーニングの設定に移行します。
2. ハイテンプレッシャーワーニングの初期設定は80℃に設定されています。
3. Function (P/T) ボタンを押しして数値を変更して下さい。
(表示が100℃の状態ではファンクション (P/T) ボタンを押しと60℃へと戻ります。)
4. お使いになる車両の空気圧をご確認ください、ハイテンプレッシャーワーニングの設定値を、正しく設定して下さい。設定値が分からない場合は、自動車メーカー及び取り付けタイヤショップ等でアドバイスを受けてください。
※タイヤにパンク等が起きた場合の責任は、ユーザーの責任となりますので、必ず正しい空気圧数値で設定を行って下さい。
5. SetUp (Reset ボタン) ボタンを押しして温度ワーニングの設定を終了します。終了すると自動的にバッテリーボルテージ表示に移行します。

■ 車両バッテリーワーニング値の設定 (10.5V~12.5V)

車両バッテリーワーニングとは、警告電圧として設定したバッテリーの電圧のことです。車両のバッテリーの電圧残量が、この設定温度値以下に下がると、ワーニング (警告) としてモニター右上部の警告 (バッテリー) マークが点滅表示してドライバーに知らせます。



【バッテリー電圧表示画面】

1. ハイテンプレッシャーワーニング設定の後、システムは自動的に車両バッテリーワーニングの設定に移行します。
2. 車両バッテリーワーニングモードの初期設定値は、10.5Vに設定されています。
3. Function ボタン (P/T) を押しして、任意の設定値に合わせます。
ボタンを1回押しごとに0.5V単位で設定できます。
設定上限値の12.5Vを超えると、下限値の10.5Vに戻ります。繰り返し押しして設定し直して下さい。
4. 車両バッテリーワーニング設定の値の表示の状態では、SetUp ボタン (Reset ボタン) を押しと設定が確定します。画面は通常の表示に戻ります。

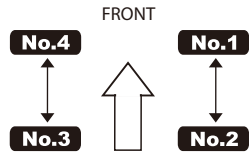
ローテーションリセット方法

TPチェッカーには、5パターンのタイヤローテーション方法(センサーリセット方法)が設定されています。

- ・3通りのローテーション方法
- ・ランダムローテーション方法(4つのセンサーを全てリセット)
- ・選択したセンサー(センサーを交換した際)のリセット方法

以上、5パターンの機能を持っています。

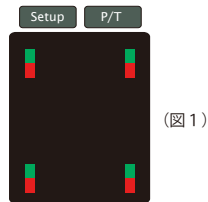
Mode 1 ローテーション方法①



ローテーションモード①は、左図の様な前後のローテーションモードを指します。タイヤローテーション作業を行なった後に、以下手順でセンサーリセット作業を行なって下さい。

◆ 手順①

Setup ボタン (Reset ボタン) を押しながら、Function(P/T) ボタンを同時に約 15 秒以上押し続けて下さい。ディスプレイが緑と赤に点滅をし、「ビー」と音が鳴ります。「ビー」と音がなった後モニターにはオレンジ色で 1 と表示されます。



(図 1)

◆ 手順② (図 1)

赤色の LED は点滅し、ローテーションするタイヤの場所を示します。(図 2.3)

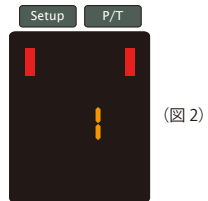
◆ 手順③

車両のローテーションが終了しましたら、Setup ボタン (Reset ボタン) を 3 秒間長押しすると「ビー」と音が鳴り、設定が終了し、システムは通常のオペレーティングモードへ自動で戻ります。

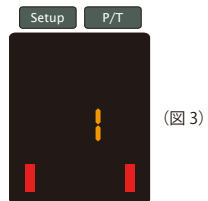
<注意>

タイヤローテーション・リセット作業中に車両の電源を切り、モニターに電源が供給されなくなると認識されません。モニターに電源が供給されなくなるとセンサーのポジションが正しく認識されないことがあります。

リセット作業が終了し、センサーの再認識が完了しましたら、必ず正しく再認識できているかを確認してください。もし、正しく認識できていない場合はもう一度作業を行ってください。

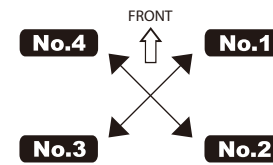


(図 2)



(図 3)

Mode 2 ローテーション方法②



ローテーションモード②は、左図の様なクロスローテーションモードを指しています。タイヤローテーション作業を行なった後に、以下手順でセンサーリセット作業を行なって下さい。

◆ 手順①

Setup ボタン (Reset ボタン) を押しながら、Function(P/T) ボタンを同時に約 15 秒以上押し続けて下さい。

ディスプレイが緑と赤に点滅をし、「ビー」と音が鳴ります。(図 1)

◆ 手順②

ローテーションモード①を認識すると、モニターの数字が「1」になります。続けて Function(P/T) ボタンを押すと「ビッ」という音と共にモニターの数字が「2」に変わり、ローテーションモード②である事を表しています。(図 3)(図 4)

この画面を確認しましたら、タイヤローテーション作業を行ってください。この際、モニター部分に左図のような赤いマークが出ます。マークはローテーションするタイヤの動きを示しています。(図 3)(図 4)

◆ 手順③

車両のローテーションが終了しましたら、Setup ボタン (Reset ボタン) を 3 秒間長押しすると「ビー」と音が鳴り、センサーポジションの再認識が完了します。システムは通常のオペレーティングモードへ自動で戻ります。

<注意>

タイヤローテーション・リセット作業中に車両の電源を切り、モニターに電源が供給されなくなると認識されません。モニターに電源が供給されなくなるとセンサーのポジションが正しく認識されないことがあります。

リセット作業が終了し、センサーの再認識が完了しましたら、必ず正しく再認識できているかを確認してください。もし、正しく認識できていない場合はもう一度作業を行ってください。



(図 1)



(図 2)

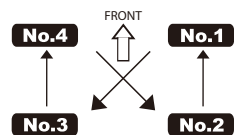


(図 3)

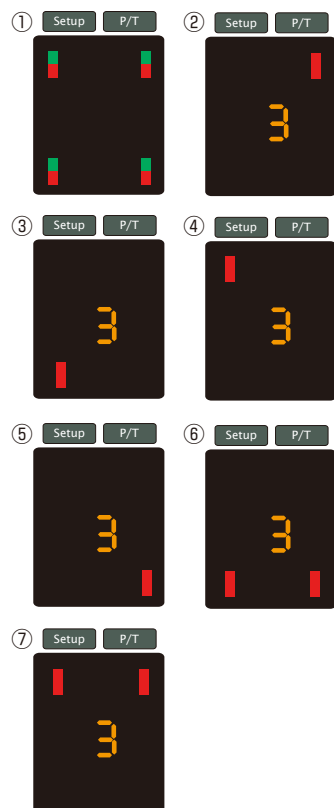


(図 4)

Mode 3 ローテーション方法③



ローテーションモード③は、左図のようなローテーションモードを指しています。タイヤの入れ替えを、左図を参考に間違えないようにご注意ください。タイヤローテーション作業を行なった後に、以下手順でセンサーリセット作業を行なって下さい。



◆ 手順①

SetUpボタン(Resetボタン)を押しながら、Functionボタン(P/T)を同時に約15秒以上押し続けて下さい。

ディスプレイが緑と赤に点滅をし、「ピー」と音が鳴ります。(図1)

◆ 手順②

ローテーションモード①を認識すると、モニターの数字が「1」になります。続けてFunctionボタン(P/T)を押すと「ピッ」という音と共にモニターの数字が「2」に変わり、更にFunctionボタン(P/T)をもう一度押しモニターに「3」を表示させれば、ローテーションモード③である事を表します。

この画面を確認したら、タイヤローテーション作業を行ってください。この際、モニター部分に左図のような赤いマークが出ます。マークはローテーションするタイヤの動きを示しています。

◆ 手順③

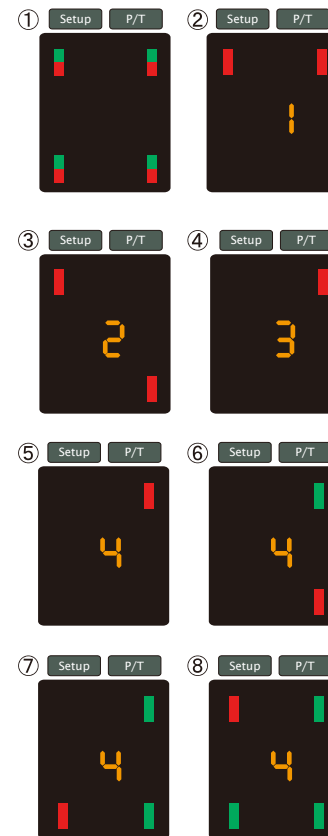
車両のローテーションが終了しましたら、SetUpボタン(Resetボタン)を3秒間長押しすると「ピー」と音が鳴り、センサーポジションの再認識が完了します。システムは通常のオペレーティングモードへ自動で戻ります。

<注意>

作業中に車両の電源を切ったり、エンジンを掛けたりしないでください。モニターに電源が供給されなくなるとセンサーのポジションが正しく認識されない事があります。

リセット作業が終了し、センサーの再認識が完了しましたら、必ず正しく再認識できているかを確認してください。もし、正しく認識できていない場合はもう一度作業を行ってください。

Mode 4 ローテーション方法④ (各センサーを初期化する方法)



ローテーションモード④は、ランダムにローテーションを行った際に使用するモードを指します。タイヤローテーション作業を行なった後に、以下手順でセンサーリセット作業を行なって下さい。

◆ 手順①

SetUpボタン(Resetボタン)を押しながら、Functionボタン(P/T)を同時に約15秒以上押し続けて下さい。ディスプレイが緑と赤に点滅をし、「ピー」と音が鳴ります。

◆ 手順②

ローテーションモード①を認識すると、モニターの数字が「1」になります。続けてFunctionボタン(P/T)を押すと「ピッ」という音と共にモニターの数字が「2」に変わり、更にファンクションボタン(P/T)を2回押しモニターに「4」を表示させれば、ローテーションモード④である事を表します。

◆ 手順③

以下手順でリセット作業を行います。モニターに「4」と右フロント(赤いLED)が表示されている事を確認し、右フロントタイヤ空気圧を160kPa以下まで抜いて下さい。

センサーが感知し「ピッ」という音と共に、赤く点灯していたLEDランプが緑色に変わります。これはモニターがセンサーを認識したことを表します。緑色に変わったことを確認したら、右フロントタイヤにエアを充填させリセット作業を終了させます。その間に右リヤに赤点灯が移行します。

◆ 手順④

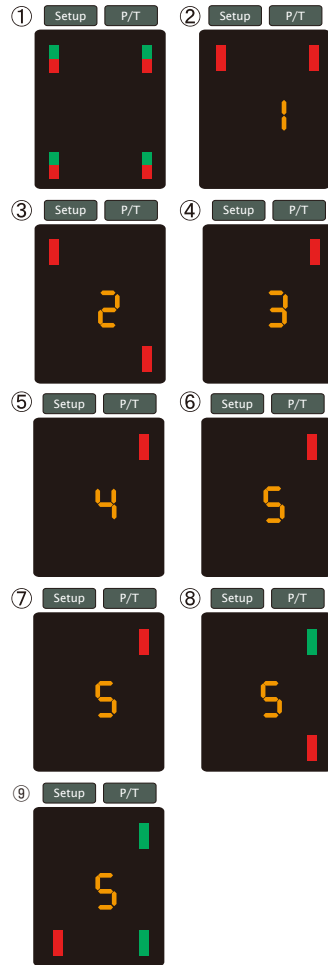
右リヤ以降、左リヤ、左フロントと、手順④の作業を繰り返し、左フロントの作業終了後自動的にオペレーションモードに戻ります。

<注意>

作業中に車両の電源を切ったり、エンジンを掛けたりしないでください。モニターに電源が供給されなくなるとセンサーのポジションが正しく認識されない事があります。

リセット作業が終了し、センサーの再認識が完了しましたら、必ず正しく再認識できているかを確認してください。もし、正しく認識できていない場合はもう一度作業を行ってください。

Mode5 センサーを破損させて、1個だけセンサーを交換した場合



ローテーションモード⑤は、センサーが破損または電池切れ等で交換した際に使用するモードを指します。ホイールから、破損又は電池切れをしたセンサーを取り外し、リペアセンサーを取り付け、以下の手順に沿って正しく車両へ装着して下さい。

◆ 手順①

SetUpボタン(Resetボタン)を押しながら、Functionボタン(P/T)を同時に約15秒以上押し続けて下さい。ディスプレイが緑と赤に点滅をし、「ピー」と音が鳴ります。

◆ 手順②

ローテーションモード①を認識すると、モニターの数字が「1」になります。続けてFunctionボタン(P/T)を押すと「ピッ」という音と共にモニターの数字が「2」に変わり、更にファンクションボタン(P/T)を3回押しモニターに「5」を表示させれば、ローテーションモード⑤である事を表します。

※本書は、左リヤのタイヤセンサーを交換した仮定で、インジケーターのポジションを合わせています。

◆ 手順③

交換したセンサーのポジションまでSet upボタン(Resetボタン)を押し、赤く点灯しているマークを左リヤのポジションに合わせます。(図9)
ポジションを合わせましたら、センサーを交換したタイヤの空気圧を目安として160kPa以下まで抜き、「ピッ」という音とが鳴ればセンサーが感知した合図になります。
この合図を確認したら、空気を抜いたタイヤへ適正空気圧を充填させリセット作業を終了させます。モニターが自動的に通常モードに戻ります。

<注意>

作業中に車両の電源を切ったり、エンジンを掛けたりしないでください。モニターに電源が供給されなくなるとセンサーのポジションが正しく認識されない事があります。

リセット作業が終了し、センサーの再認識が完了しましたら、必ず正しく再認識できているかを確認してください。もし、正しく認識でき

対応マニュアル

◆ モニター電源を入れても表示が出ない (*次ページに対処手順を記載)	
電源ケーブルとモニターのソケット接触不良	電源ケーブルを一旦抜き、再度奥まで差し込んでください
電源ケーブルとシガーソケットの接触不良	電源ケーブルを一旦抜き、再度奥まで差し込んでください
電源ケーブル故障	電源ケーブルを交換し、オレンジ・ジャパンへ返送してください
モニター内部ヒューズ切れ	モニターを交換し、モード4のローテーション設定方法で再設定後、故障したモニターをオレンジ・ジャパンに返送してください
◆ モニター表示部の数字不完全又は点灯異常	
モニター内部回路故障	モニターを交換し、モード4のローテーション設定方法で再設定後、故障したモニターをオレンジ・ジャパンに返送してください
◆ モニター電源ON後、全ての車輪からの信号を受信できず、全タイヤの表示位置に「E1」を表示される	
車内又は付近に電波障害や電波遮断が存在し、受信が妨害されています	車両を移動し、再受信を試みてください
センサーとモニターのペアリングミス	モード4のローテーション設定方法でセンサーを再設定します
モニター内部のRF受信回路故障	モニターを交換し、モード4のローテーション設定方法で再設定後、故障したモニターをオレンジ・ジャパンに返送してください
◆ ある車輪(一輪若しくは2~4輪)から信号を受信できません。該当車輪の表示位置に「E2」が表示される	
車内又は付近に電波障害や電波遮断が存在し、受信が妨害されています	車内又は付近に電波障害や電波遮断が存在し、受信が妨害されています
当車輪のセンサー設定ミス	モード4か5(単一センサー交換モード)の設定方法で再設定してください
該当車輪のセンサーが故障しています	センサーを交換後、モード5(単一センサー交換モード)の設定方法で再設定してください(交換したセンサーを製造元に返却してください)
電源ケーブル施行方法をチェックしてください	アンテナ線(白)が電源ケーブルに含まれているので、なるべくストレート状態で施行してください
特殊フィルムが貼ってあるかチェックしてください	
防磁ガラス車両かチェックしてください	
◆ 設定ボタン又は「Function」ボタン無反応	
車内又は付近に電波障害や電波遮断が存在し、受信が妨害されています	モニターを交換し、モード4のローテーション設定方法で再設定後、故障したモニターをオレンジ・ジャパンに返送してください
◆ 圧力(温度)の数値表示位置が不正確	
タイヤの装着位置が不正確	タイヤを正しい位置に装着してください
センサーの装着位置が不正確	モード4か5のローテーション設定方法でセンサーを再設定します
◆ アラームが鳴らない	
モニター内部回路の故障	モニターを交換し、モード4のローテーション設定方法で再設定後、故障したモニターをオレンジ・ジャパンに返送してください

対応マニュアル

◆ モニター電源を入れても表示が出ない

①: センサーが正常に作動しているか?

先ず「トリガーツール」でチェックして下さい。

②: モニター側に対して強制的にリセット(初期設定)を施して下さい。

全てのセンサーが正常に作動していたら・・・モニター側に問題有りと判断
逆にセンサーが作動していない場合は・・・センサー交換又はセットごと一式交換

本書の「ランダムローテーション:MODE4」で全て初期化して、表示すればOK!

【表示しない場合】

モニター交換し、「ランダムローテーション:MODE4」にて初期化して完了させる。

単位換算表

■ kPa, PSI, bar 換算表

kPa	PSI	bar	kPa	PSI	bar	kPa	PSI	bar
10	1	0.1	210	31	2.1	410	59	4.1
20	3	0.2	220	32	2.2	420	61	4.2
30	4	0.3	230	34	2.3	430	62	4.3
40	6	0.4	240	35	2.4	440	64	4.4
50	7	0.5	250	37	2.5	450	65	4.5
60	9	0.6	260	38	2.6	460	67	4.6
70	10	0.7	270	39	2.7	470	68	4.7
80	12	0.8	280	41	2.8	480	70	4.8
90	13	0.9	290	42	2.9	490	71	4.9
100	15	1.0	300	44	3.0	500	73	5.0
110	16	1.1	310	45	3.1			
120	17	1.2	320	47	3.2			
130	19	1.3	330	48	3.3			
140	20	1.4	340	50	3.4			
150	22	1.5	350	51	3.5			
160	23	1.6	360	53	3.6			
170	25	1.7	370	54	3.7			
180	26	1.8	380	55	3.8			
190	28	1.9	390	57	3.9			
200	29	2.0	400	58	4.0			

■ °C / °F 換算表

°C	°F	°C	°F	°C	°F
-40	-40	20	68	80	176
-30	-22	30	86	90	194
-20	-4	40	104	100	212
-10	14	50	122	110	230
0	32	60	140	120	248
10	50	70	158	125	257

注意事項及び作業確認書

◆ 本製品は、車両のタイヤ空気圧・温度を監視することを補助するシステムであり、お客様自身に帰する
タイヤ点検又は、車両メーカーの規定に基づいた定期点検を代替するシステムではありません。

◆ 本製品は、リアルタイムに各車両のタイヤの空気圧・タイヤ内温度をモニタリングするもので、
パンク等の急激な減圧を事前に予測するものではありません。

◆ 本製品は以下事由で、正常に作動しない場合があります。

1. センサーの電池切れ
2. 電波障害(近くに同周波数帯を使っている施設・車両・又は特殊電波環境下にある場合等)
3. 特殊フィルムをガラスに貼っている車両
4. 防磁ガラス車両
5. パンク修理剤を使用した場合
6. ホイール・タイヤハウス内に雪・氷がついた場合
7. 受信機の未接続

◆ 使用上のお願い

1. 一般公道用としてお使い下さい。
2. 縁石・キャッツアイには十分注意を払って下さい。(センサー破損の原因となります。)
3. 受信機各スイッチ部に過度の力をかけないで下さい。

4. 異常警告設定は、下記設定となっています。

ロープレッシャー(低空気圧異常警告値)

以下になると警告します。

ハイプレッシャー(高空気圧異常警告値)

以上になると警告します。

ハイテンプ(高温度異常警告値)

以上になると警告します。

5. タイヤ空気圧及びタイヤ内温度は、外気温度によって変化する為、季節の変わり目毎に、
上記異常警告設定値の変更をお勧め致します。

6. 設定空気圧(kpa)

設定時のタイヤ内温度(°C)

	左		右	
	空気圧	温度	空気圧	温度
前輪				
後輪				

保証書内容及び注意事項を了承しました。

お客様サイン

平成

年

月

日